

# OSAKA・II ZONTA CLUB

大阪Ⅱゾントクラブ第47号(2019年3月)



## 巻頭言

### 横浜の楽しい思い出

会長 内藤 恵子



第64回ZONTA国際大会がパシフィコ横浜で開催されました。大阪Ⅱゾントクラブから、16名が参加しました。参加者2500名、日本人は500名で、パシフィコ横浜はいつもの世界大会のように世界各国の参加者であふれていました。遠い日本まで良く来て下さったと、感激しました。会議初日のFlag Paradeでは、国旗を議場に飾り、地図がスクリーンに出ました。世界の隅々までZONTAの組織が張り巡らされ、私たちもメンバーの役目を果たさなければと実感しました。私の会議や役割のない時はZONTA STOREにつめていました。ベトナムの支援先で作成した刺繍の額が好評で、世界各国のZONTIANに買っていただきました。大阪Ⅱゾントクラブの扇のバッジも喜んでいただきました。バッジがあると、話のきっかけになり、役に立ちました。ゾントクラブのたすきも、岡山と私たちだけで、大阪Ⅱゾントクラブをアピールできました。Keynote Speakerは、ニュージーランド元首相Helen Clark様でした。女性キャリアの草分けトップの方で、オーラが伝わってきました。Memorial Serviceは、2年間に亡くなられたZONTIANのお名前をスクリーンに出して、各地区ガバナーが黄色のバラをそなえました。ZONTAが会員を大事にしていることがよくわかりました。Business Sessionでは、宇宙飛行士山崎直子氏がZONTA奨学金を受け取っておられた頃から宇宙飛行士になるまでのお話を伺いました。私の役割は、元国際会長のお世話でした。オランダで国際会長だったフェリー氏はすこしもお変わりなく美しく賢明な方でした。お会いでき、ご挨拶もして、あの時きてたの?と仰ってくださいました。とても楽しい時でした。2年後のシカゴでの再会を約束して、世界のZONTIANとお別れしました。2年後はZONTA100周年です。奮って参加してください。





## オープニングセレモニー

----- 幡山 玲子



五臓六腑に響き渡る和太鼓の演奏で世界大会は始まった。日本航空高校の男女生徒によるきびきびとした動きと力強い撥捌きから繰り出される音が、体にびんびんと響いてきて、これから始まる開会式への期待をいやが上でも高めた。

まずはじめに司会のロビンソンさんの挨拶が行われた後、神奈川県知事の挨拶が予定されていたが、あまりにも開式の時間が早かったせいかなかなか登壇されず、先に日本の三宅準備委員長の挨拶が行われた。続いて神奈川県黒田知事の挨拶があった。遅参のお詫びの意味もこめたおもてなしが、石田あゆみの「ブルーライト横浜」を最後まで朗々とお歌いになった。このことで、少しは開会式の緊張がほぐれた。引き続き林横浜市長のご挨拶と安倍首相のビデオメッセージが流れた。

いよいよ恒例のフラッグパレードである。まず発祥の地であるアメリカの国旗、ついで開催国である日本の国旗、そして最後に会長の母国スウェーデンの国旗の入場である。紋付袴姿の男性によるアカペラの生演奏で、アメリカ、日本、スウェーデン国家が歌われた。朗々とした歌声が会場にひびいて、開会式の厳粛な気分を一層高めた。

国歌斉唱に続いて、いよいよ会員参加国の国旗の入場である。舞台上のおおきなスクリーンには世界地図が描かれ、設立順に国旗が舞台上に登壇、舞台後ろに次々と並べられていく。1919年のニューヨークバッファローを皮切りに、カナダ、オーストリア、ドイツ、北欧諸国に続いて、南米のチリ、イギリス、フランスと、ゾンタクラブの歴史が目の前で繰り広げられていく。名前は聞くが地球上のどこに位置するかわからない国々、カラフルな民族衣装をまとった旗手に掲げられた国旗の登場を見ていると、私が国際ゾンタの一員であることがいまさらながら誇らしく実感された。

続いてはリム・マッケンジー元会長のインタビューによるヘレン・クラークさんとの対談形式の基調講演が行われた。クラークさんは1999年から2008年までニュージーランド首相を務められた方である。ニュージーランドの農場で、何でもこなす活発な子供時代をおくられ、大学、労働党時代といつも「自分で押して」道を開いて、ガラスの天井を打ち破った方である。女性首相を3名もだしているニュージーランドは、女性知事は誕生しているが、国会における女性議員の割合は世界164位と低く、女性閣僚が数名入閣するのが話題になる日本と比べ、隔世の感がある。

まだまだ世界には、そしてもちろん日本にも女性差別は陰に陽に残っている。女性差別がどのような形で残っているか、そしてこれらの解消のために何をなすべきか、これからのゾンタクラブの課題であり、アドボカシーとして検討すべき事柄であることをお話を聞きながら痛感した次第である。





## ビジネスセッション1

坂本 千代



6月30日(土)の午後はビジネスセッション1でした。登録者数の確認や大会プログラムの承認のあと、翌日の役員選挙の立候補者たちのスピーチがありました。うっかりしていて、同時通訳の機械をもらってこなかったのに気づいたのはセッションが始まってからでした。でも、立候補者の方々の英語がだいたいいおいてゆっくりと聞き取りやすかったことと、大会のプログラム冊子の中に全候補者のプロフィール、ゾンタにおける業績、自分のアピールポイント、抱負などが書かれていたので、スピーチの内容をおぼろげに理解することができました。

国際会長への立候補者の二人はアメリカ人、副会長候補の二人はドイツ人、そして会計担当候補者はアメリカ人とカナダ人でした。皆こういうスピーチに慣れていて、時々聴衆を笑わせながらアピールする姿はさすがだと思いましたが、その一方で、英語がゾンタの公用語であるということは、英語を母国語とする人々(およびドイツや北欧など言語的に英語に近い国の人たち)に圧倒的に有利だと今さらのように思っていました。通訳があれば誰でもスピーチを理解することができますが、このように英語を使って選挙に出ることはなかなか日本人には難しいと思います。また、ゾンタのようなクラブの役員を決めるのに、複数の候補者から一人を選ぶというのも、私にはなんだか抵抗感がありました。(私の職場の教職員組合でさえ、役員選挙ではたいてい候補者ひとりの信任投票です。)でも、日本のように「根回しをしてあらかじめ適切な人を探しておく」というのは、かなり同質性の高い社会・組織でなくてはだめなのだろうとも思います。それはともかく、立候補者たちの選挙演説はなかなかにおもしろく、「国際大会に来た」という感じをたっぷり味合わせていただきました。

## デリゲート参加報告

笠置 伸子



6月29日4時からデリゲートのトレーニングがありました。そこで機械の操作の仕方から隣同士の投票が見えないように一つ置き座るように、細かい指示がなされ、とても厳粛で公正な選挙が行われるように徹底した指導を受けました。

翌日の30日は3時半から候補者のスピーチがありました。最初に会長候補者は2名、副会長候補者2名、会計/書記候補者2名のスピーチをして、2名のうち1名を選挙で選びます。

国際理事候補13名のうち7名を選出する為のスピーチを聞きました。その後、国際指名委員を北・中央・南アメリカ地区、ヨーロッパ地区、オーストラリア・ニュージーランド地区から2名の候補者から1名を選出、アフリカ地区、アジア地区は各1名の候補者、そしてその後全世界区候補者6名中、4名が選出される為のスピーチを聴きました。各候補はゾンタでの歴史と功績、考え方等を熱心に語り、それぞれの候補者に共感できる事が沢山ありました。

毎日、投票数の確認をしており、7月1日は国際ボード11名、国際会長経験者7名、ガバナー31名で総投票数は1467名です。選挙当日は7時45分に入口のドアを閉めて、出入りを禁止して選挙が行なわれました。

その結果国際会長は90%近くの指示を受けて Sharon Langenbeck 会員に、副会長には80%近くに支持された Ute Scholz 会員が選出され、会計は75%の支持を得た Mari McKenzie 会員、理事は13人の候補者のうち Marguerite Akossi-Mvongo 会員、Margaret Bateman 会員、Sigrid Duden 会員、Lalivan Karnchanachari 会員、Kathryn 'Kay' Meyer 会員、Christina Rylander Bergqvist 会員、Salla Tuominen 会員の上位7名が選ばれました。

北・中央・南アメリカ地区の理事に Denise Quarles 会員、ヨーロッパ地区の理事に Dietlind Stuerz 会員、アフリカ地区の理事に Anne-Marie French Cudjoe 会員、オーストラリア、ニュージーランド地区の理事に Janet Hope 会員、アジア地区の理事に Dilruba Ahmed 会員が選ばれました。

最後に指名委員が6人の立候補者の中から Sonija Hönig Schough 直前会長、Dunstanette Macauley 会員、Judith Anderson 会員、Sonia Albanese 会員の上位4名が選ばれました。大変長い緊張した時間を共有致しました。



聘珍楼での夕食会

辻 康子



和太鼓演奏や華やかなフラッグパレードが披露された開会式の日の夜、横浜中華街「聘珍楼」で夕食会がありました。席は自由で、私達大阪Ⅱ ZC のメンバー 5 人はちょうど 5 席空いていた円卓と一緒に座ることができました。

同席だったのは(写真前列右から) アイリーン・フォン・ゴルダッカーさん(スイス) エリア 4&28 のディレクター(2014-2017)、その左隣りはマリア・マンニネン・オルベルクさん(フィンランド) 老人内科のお医者様。所属されているクラブは 70 年以上の歴史があるそうです。開会式のフラッグ・パレードはゾンタクラブ設立順に国旗が入場するのですが、アメリカ、カナダに続いて北欧諸国が入場したことを思い起こしました。写真前列真ん中の方はスイス・バーゼル ZC のアナマリー・シェリングさん。アイリーンさんと同じくエリア 4&28 のディレクターをこれから 2 年間勤められます。スイスの中でもドイツ語圏にお住まいですが数か国語を操られ、写真左隣のブルキナファソという西アフリカにある国のゾンシャン A さん(名刺をもらわず名前が覚えられなかったので A さんということにします)とはフランス語で話されていました。とても明るく朗らかな方です。A さんは弁護士で、まだ本当にお若いのですが、ご主人を亡くされ 3 人の子供は留学や仕事でフランス在住とのことでした。ワインやビールを飲みながらお料理をおいしくいただきましたが、A さんには頼りない味だったのかホットペッパーを御所望。「マスタードではダメ？」などと他愛ないやりとりをしているうちにすっかり打ち解け、気楽に、美味しく、楽しい時間を過ごしました。

26 地区が日本だけで構成されるようになってから、外国のゾンシャンと会う機会が減りました。台湾のエミ・ライさん、韓国のウン・スック・リーさんにお目にかかれ、以前と変わらないお元気なご様子にとっても嬉しく思いました。

横浜の世界大会を機に京都、天橋立、広島、岐阜白川郷などいろいろな所を観光するというゾンシャンが多かったです。世界大会終了後の大雨の影響はいかばかりかととても気になりました。日本の印象は? 「清潔、親切、友好的」というのがほとんどの人の答えでした。

国際交流は結局、個人と個人の結びつきです。ゾンタという国際組織の中で、同じ目標に向かってそれぞれの立場で必要とされている事を推し進めていくという連帯感があり、出逢ったゾンシャン達にとっても親しみを感じました。



船上ラウンジでのビュッフェ

尼木 純子



今回の船上ビュッフェには坂本会員も参加されていたので、ご一緒させていただいてとても心強かったのが本音でした。

船上では着席するテーブルが用意されていて、自由に食事をとってきて、自由に談笑出来るのですが、同じテーブルに着席されたのは、フィンランドからいらっしゃったご夫婦とても流暢に解りやすい英語で色々話しかけて下さいましたが、何を話されているのかは大体解るのですが、いざこちらが話すにも上手く英語が出てこず、もっぱら坂本会員が色々とおもむき話をして盛り上げて下さいました。

私がとても感心したのは、日本の村上春樹の本をちゃんとフィンランドで読んでいらっしゃるとおっしゃった事です。残念ながら、ノーベル文学賞候補にも挙がっている著名作家ですが、私はお恥ずかしいですが読んでいないので話が盛り上がることなく、坂本会員はあまり好きな作家ではないとおっしゃってその会話は終了しました。流石に日本に来訪される前に著名作家の本を読んでからいらっしゃるのには感心いたしました。

日本で何不自由なく暮らしていると、ついつい英語に拒否反応を起こしてしまっている私ですが、これからますますインターネット等の普及で世界がグローバル化して来ている昨今、英語だけでももっと堪能にならないといけなあと反省しきりのイベントでした。

さよならガラパーティー

宮本 典子



世界大会 3 日目の午前中私は Information Desk を担当しました。この日になると仕事はおもに忘れもの探しを中心でした。携帯電話やスカーフのような身の回りのものが多く持ち主が現れて見つかった時はとても嬉しかったです。ほとんど持ち主にもどりました。

お仕事が終わリゾンタストアをかたづけ一旦ホテルへ帰り一服して夜のパーティーの会場、ロイヤルパークホテルに向かいました。時間は十分取ってありましたが、すでに入り口から、正装した外国と日本の女性で一杯でした。会場に入るのにずいぶん時間が掛かりました。そして会場に入るとすでにひとでいっぱいでした。広い会場のドアは開け放たれ、そのロビーまでテーブルが置かれていました。大阪Ⅱの仲間は皆和服に着替えてもうお席についていました。私が席に着く前にすでに美智子皇后がお見えになり、海外の方々にはご挨拶があったようでした。

何しろ 2500 人の大宴会で一体どうなるかと思いましたが、そこはホテル。手際良くちょうどよいタイミングでコース料理を頂いておわかりました。海の幸のゼリー寄せも、ビーフのワイン煮もデザートはチョコレートムースも美味しく頂きました。アメリカのお友達を探しましたが誰も見つけることができませんでした。



## 童謡生誕100周年に寄せて (9月13日)

芳川 た江子



第272回大阪Ⅱゾンタクラブの例会では、元大阪Ⅱゾンシャンの萩原謠子様をお招きして、卓話「童謡生誕100周年に寄せて」についてお話していただきました。

今年は、童謡が生まれて100年目になることから、童謡を次世代に伝えていく活動をしていらっしゃいます。3年前に文部科学省が国民にアンケートをとり、次世代に伝えたいいい歌101曲を集め、童謡生誕100周年記念101曲リレーコンサートを5回シリーズで2018年7月からスタートしていらっしゃいます。

100年前の大正7年7月1日に童謡は生まれ、「赤い鳥」創刊から廃刊までの18年間の間に生まれた童謡は55曲あるそうです。童謡は、ストーリーになっていて、日本の文化や情緒、四季おりおりの美しさなどがめらられていて、心に残る曲が多いようです。しかし、最近は童謡はあまり歌われなくなってしまい、若い世代は童謡を知らない人が多いようです。これは、昔は学校で音楽の時間に童謡を習っていましたが、最近は学校で童謡を教えなくなったからのようです。9歳までの時期に心を育てることが大切なので、童謡を聞かせることが大事だと萩原様は、おっしゃっています。

また、萩原様が作詞・作曲された「ありがとう～ふるさと」という曲を紹介して下さり、ユーチューブなどで聞くことができるそうです。

最後に、夕焼小焼・赤蜻蛉・小さい秋みつけたの童謡3曲を皆で斉唱いたしました。



## 服と人間の関係ーフランスのムスリム女性について (10月11日)

三林 京子

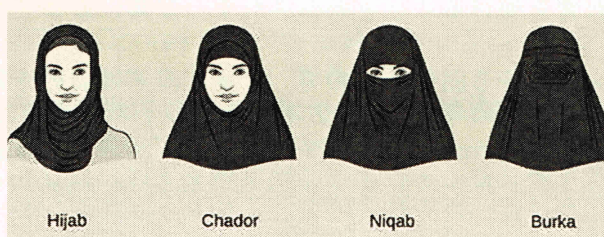


10月11日の例会にて坂本千代会員による卓話がありました。

フランスでは、旧植民地であった北アフリカ等の移民やその子孫など、人口の約1割がイスラム教徒（ムスリム）です。移民2世はフランスで生まれ育っているが、学校と家では全くアイデンティティーが異なります。イスラムの衣服は、「ヒジャブ」「ニカブ」「ブルカ」と段階があり、イスラム社会では「ブルカ」を着る事が最も尊重されます。しかしながら全身をヴェールで覆う為、本人確認不可能の理由で2010年9月に「ブルカ禁止法」が成立して2011年に施行され、家族等が女性にブルカ着用を強制した場合は禁固1年か罰金3万ユーロ（約320万円）が科せられます。「ブルカ禁止法」が成立する前の5月『私のニカブの下に』というジェナヌ・カレー・タジェ著作、アラブ系フランス人ザイナ（仮名）のドキュメンタリーが刊行されました。この著作がどの程度禁止法に影響を与えたかは不明ですが、フランスの伝統的ムスリム家庭の従順な娘として育ったザイナが結婚後、夫がイスラム主義に夢中になり、ザイナにもイスラム戒律遵守を要求して暴力的となります。夫の暴力がエスカレートするとともに、伝統的な衣服を着用し、全身を覆うヴェールに身体と精神も呑み込まれたように感じていきますが、同時に匿名と溶解の快適さを覚えます。やがてモスクへも行かせて貰えず、家の中に軟禁状態になり、イスラムの伝統的的衣服に対する束縛感から解放されたい感情で家を出て伝統的的衣服を脱ぐまでのドキュメンタリーです。

2016年8月にはイスラム教徒の女性が着用する肌を覆う水着「ブルキニ」をフランスの複数の自治体が禁止したことで問題になりました。海水浴場での水着は公序良俗と政教分離の理念を尊重しなくてはならないとされているので、これ見よがしの宗教色はいけないという理由だそうです。

肌を出すことで解放感が得られるならば、ムスリムの女性達も許される範囲で肌を出していただきたいと思いました。





## 大阪水上隣保館「山崎保育園」訪問

久岡 眞佐代



大阪Ⅱゾンタクラブ・奉仕委員会は、2018年12月7日、午前9時から2時間、社会福祉法人大阪水上隣保館が運営する「山崎保育園」（大阪府三島郡島本町山崎）を訪問しました。

今回は、山崎保育園の3歳児から5歳児の誕生日会のイベントの一つとして参加させていただきました。朝の礼拝から始まり、12月生まれの園児たちによる鉄棒や歌なども披露され、最後に私どもが銭太鼓とハンドベルを演奏するという奉仕活動を実施しました。

参加者は、奉仕委員会の委員10名（牛田、笠置、辻、中田、中塚、西村、幡山、久岡、宮本、芳川）のほかに、奉仕委員会が月1回銭太鼓の指導を受けている新元先生も参加してくださいました。当日演奏しました曲目は、以下のとおりです。

- ・銭太鼓：さんぽ、人間っていいな、365歩のマーチ
- ・ハンドベル：ハッピーバースデー、もののけ姫、さんぽ、エーデルワイス  
きよしこの夜

園児たちは、銭太鼓が珍しかったらしく最後まで目を輝かせて観てくれ、演奏後は「カッコよかった」と言葉をかけてくれ、そのかわいさ、優しさに思わず心がなごみました。山崎保育園では3・4・5歳児の混合クラスを作って、うさぎ「ホーム」、ぞう「ホーム」などと名前を付けていると伺い、5歳児が3歳児の世話をするという兄弟姉妹のような交流の中で思いやりの心が芽生え、初めて会った私どもにも温かい言葉をかけてくれたんだと嬉しくなりました。

私は、2年振りに参加した奉仕活動ということで緊張の余り、前夜は4時間しか眠れませんでした。当日はあっという間に2時間が過ぎ、園児たちの明るい笑顔に元気をもらい、子どもだけでなく大人も思いやりの心を持ちながら生きて行かなくてはと改めて教えられ、すがすがしい気分で帰路につきました。



## 寄付先紹介

## プラン ジャパン インターナショナル

牛田 三千子



私達大阪Ⅱゾンタクラブが設立以来支援する「プランジャパンインターナショナル」は元々「フォスタープラン」として知られていました。1937年にスペイン内戦で孤児になった子供たちを助けるためにイギリスで始まった運動が、このフォスタープランでした。今では活動の場をアジア、アフリカ、中南米の途上国へと移し、貧困という大きな問題と取り組んでいます。その名称も「フォスタープラン」から、「プランインターナショナル」と変更され、世界で約111万人のスポンサーが、約140万人のチャイルドを支援しています。

大阪Ⅱゾンタクラブは、1994年の設立当初からこの活動に賛同し、スポンサーの1人（団体）として子供たちをサポートしてきました。1年に6万円を寄付することで、1人の子供の一年間の教育費を負担することができます。私達は年間12万円の予算を組み、常に2人の子供たちのスポンサーになって応援してきました。現在はアフリカ大陸西部のセネガルの女の子と南米ペルーの女の子が私たちの子供たちです。

セネガルの女の子は、MAME DIARRA GUEYEという名前の8歳の少女です。まだ字が上手に書けないようで、叔母さんが英語で代筆して時々様子を知らせてくれますが、そこにはMAMEちゃんが描いたバオバブの木の絵も添えられています。ペルーの女の子は、DELFINA AMAO AMAOという名前で年齢はやはり8歳です。彼女はアンデス山脈の高地に住んでいて家族は農業や牧畜をしており、兄や姉がいるようです。手紙は兄や姉が代筆してスペイン語で送られてきますが、プランジャパンの事務局が翻訳文をつけてくれますので、内容を理解することができます。

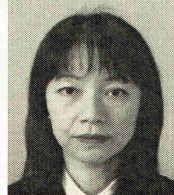
こちらからも時々カードや消しゴムやシール、折り紙などの小さな文房具を送って喜ばれています。私達は、この子供たちが18歳になって教育期間が満了するまで支援を続けます。今までに18歳までの教育を受けられた男の子は何人かいましたが、中には途中で勉学が続けられず支援を打ち切らざるを得なかった女の子もいます。多分女の子の方が、周囲の人に教育を受けることを期待されず、安易に家事子守などに使われるため就学の機会が失われるのでしょう。

ゾンタクラブは女性や女兒の人権を守る団体ですので、チャイルドは女兒を希望してスポンサーをしています。プランインターナショナルでも同様に考え、2012年から女の子の生きる力を支援する「Because I am a Girl」というキャンペーンを始めています。途上国の女の子の早婚や若年の妊娠による身体への悪影響また人身売買によるリスクをなくし、教育を受けることによって識字率を上げ、自立へと導く・・・これはゾンタの理想でもあります。大阪Ⅱゾンタクラブは、この願いのもとこれからもスポンサーとして支援を続けていきたいと考えています。



## なにわ淀川花火大会鑑賞

笹岡 厚子



今年の夏の納涼会は内藤会長のご自宅での、なにわ淀川花火大会の鑑賞となりました。

この花火大会は平成元年に始まり、本年度で30回目を迎える記念すべき大会でした。その日、私は梅田でセミナーがあり2時すぎには梅田に着いたのですが、すでに梅田駅周辺には浴衣姿の若い方達が沢山行きかき、いつも以上に騒めておりました。

今回の納涼会はみんなで持ち寄りパーティという事でしたので、セミナー出席後デパートの地下に行きますと、すごく混雑していて前に進みにくい状態になってきましたので、買い物もそこそこに内藤会長のご自宅へと急ぎお伺いしました。

ご自宅は中津駅近くのロケーションで、とても分かりやすく便利なところでした。ドアを開けますと浴衣姿の内藤会長と愛犬のアメリカちゃんがお迎え下さりました。三々五々に皆さんが集まり、元会長の河村さんと子さんもドイツから宝塚の勉強に来ておられる、お二人と共に浴衣姿で参加されていました。

花火大会の始まる前のまだ明るいうちに、内藤会長がご用意してくださいました飲み物で乾杯し、夏の納涼会がスタートいたしました。そうこうしているうちに日も落ちて、定刻のPM7時40分にオープニングの花火が打ち上がりました。涼しいお部屋の中で、打ち上がる花火がお部屋の窓全面に広がり、色とりどりの花火がすごい臨場感と迫力で見ることができました。



少し時間がたち、ベランダに出てみますと、打ち上げ音がより一層大きくなり臨場感が高まり、部屋の中とは違う熱気と花火の光が夏の夜を感じさせてくれました。ベランダからは同じ日に開催されていた神戸の花火も遠くに小さく見えていました。花火大会がスタートし1時間がたとうとするころ、320mに広がる10号球10連発の大きな花火に夜空が彩られ、グランドフィナーレへと向かい華やかに花火大会は幕を閉じました。花火大会終了後も話がつきず、楽しい納涼会が続きました。

内藤会長、素敵なお部屋でゆっくりと花火を鑑賞させていただき、楽しい一夜を過ごさせていただきました。お忙しい中、お飲み物や御馳走を色々ご準備くださり、本当にありがとうございました。

## 移動例会

## 親睦旅行～富士五湖と紅葉～

堀 知子



平成30年11月3日～4日の連休を利用してゾンタ恒例の親睦旅行に出かけました。内藤会長と、笠置、笹岡、田中、辻、芳川、堀、各会員のこじんまりとした小旅行で、三島駅11時に集合し、何かと便利なジャンボタクシーでの移動でした。

まずは、三島随一の老舗割烹、「桜家」でうな重の昼食です。長蛇の列で待たないといけないところを、田中会員の手配ですぐに美味しいうな重をいただけ感謝でした。次に御殿場東山にある、旧岸信介邸の見学です。昭和44年竣工で岸信介が政界を引退後に過ごした邸宅です。素晴らしい広大なお庭と吉田五十八設計の伝統的ながらもモダンで豪華なお宅を、ボランティアの案内でゆっくり見学致しました。あいにく曇天でしたが、空気が澄んできれいなのでしょうか、お庭の紅葉やドウダンツツジの赤色が深緑の木々の中で際立って美しく映りました。とらやの工房でお菓子とお茶をいただく予定でしたが、長蛇の列、あきらめました。これだけは、残念!!

そこから山中湖の方に移動、忍野八海を見学致しました。富士山からの伏流水が湧き出て八つの池が出来ているのですが、それはそれはきれいな水で日本名水百選に選ばれています。中池の水深は8mもあるのですが、水底まではっきり見通せ、大きな鯉が悠々と泳いでいました。そして待望のエクシブ山中湖サンクチュアリヴィラに宿泊。各室、天然温泉付きで、ゆったりとホテルライフを味わいました。またディナーでは、高級食材のお料理と楽しいおしゃべりが続き、時間の経つのも忘れる程でした。

翌日は、河口湖近くの久保田一竹美術館に。インドの古城に使われていた数種類の扉を組み合わせた珍しい造形の門をくぐると、先ず目にしたのは錦織りなす美しいお庭で、思わず見とれてしまいました。美術館の展示室は、一千年を超す「ヒバの木」の大黒柱16本を使った複雑な木組みの吹き抜けで、そこに代表的な辻が花の作品群が展示されており、またまた足が止まってしまいました。室町時代に使われていた幻の技法を復活させた「一竹辻が花」という技法を施したカラフルで素晴らしい着物が、木造の展示室の中で輝いていました。久保田一竹は世界中で個展を開催していましたが、現存作家の個展を一度も開催したことのないアメリカ最大のスミソニアン国立自然史博物館で1995年11月から1996年4月にかけて、個展を長期開催し、その名を世界中に知らしめたそうです。

その後山中湖に戻り紅葉の湖畔をゆっくり散策した後、昼食に、郷土料理の「ほうとう鍋」をいただきました。きしめんよりまだ太い麺を使ったみそ風味のお鍋で、珍しくて美味しかったのですが、あまりに沢山で皆様、完食は無理でした。また、山中湖ではKABAバス（水陸両用）にも乗りました。

二日間でしたが、盛り沢山のメニューを綿密に計画していただいたお蔭で、富士山はあいにく見えませんでしたが、素晴らしい紅葉をそこかしこで、ゆっくりと堪能させていただきました。ご一緒させていただいたゾンタの皆様と、計画していただいた田中会員に感謝申し上げます。

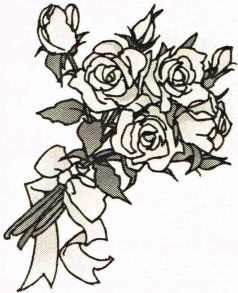




## 忘年会

### ラペティ・ロアラブッシュにて

中塚 淳子



平成30年12月8日（土）午後5時30分より、北浜のフレンチレストラン「ラペティ・ロアラブッシュ」にて忘年会が行われました。参加者19名、例会の後、お食事に入り、美味しいお料理をいただきながらテーブルごとに話に花が咲きました。平成30年最後の行事となり、今年1年間を振り返って、エリアミーティングや横浜での世界大会等々皆で頑張ってきた1年だったと感慨深いものがありました。お料理がゆっくりゆっくりと出てまいり、十分に寛ぐことができ、至福の時間を持つことができました。本年の労を労い、また来年の活躍を約し、三々五々と帰宅の途につきました。皆様、今年いろいろお世話になりました。ありがとうございました。来年もどうぞよろしく願い申し上げます。

## 新年会

### 大阪Ⅰ・大阪Ⅱの新春合同例会

中田 智恵海



花外楼本店にて、2019年1月17日6時～8時30分。講師：アボワールインターナショナル株式会社代表取締役 中村真由美様。

明けましておめでとうございます。恒例の大阪Ⅰと大阪Ⅱの新春合同例会が花外楼本店にて華やかに開催されました。大阪Ⅰ（15名）大阪Ⅱ（16名）の総勢31名が揃い、今年も皆々、心を一つにゾンタの理念に沿って活動してまいりましょう、と互いに意気を感じたひと時でした。

この日の講師は女性ならではの領域で起業し、発展し続けておられる中村真由美様。起業されるまでは上場会社に29年間勤務され、出産・育児をしながら女性初の管理職として活躍されます。多くの場合、29年間働いて乳がんを経験すれば、そこで仕事は止め、ゆっくりと、と思うものですが、中村様はそこが異なります。2011年3月11日、東北大震災の当日に両乳房温存乳がん手術を受けられるとその後は患者会に属して市民講座などで講演活動やさまざまな患者イベントを実施され、2015年10月6畳一間を借りて、乳がん手術経験者のための下着の開発・販売会社を起業されたのです。何やらスティーブ・ジョブズが自宅のガレージで会社を始めたというエピソードが思い起こされます。ちなみに例会開催当日は24年前、阪神・淡路大震災の日でした。

社名はアボワールインターナショナル。フランス語で現在完了形に用いるhaveを指し、「つらいのはこれで終わり」という意味と、「あ・A」で始めればインターネットなどでも最初に出て他者にアピールしやすい、さらに「世界に打って出よう」という思いを込めてインターナショナルと加えて社名にされます。

乳がん術後の下着は約40年前から製造されてきてはいるものの機能的ではあってもお洒落とはほど遠く単一で、しかも高額だったとのこと。そこで、脇や肩に食い込まない、センターがずれない、着心地が良くて肌触りの良い、お洒落な下着を提供して乳がん回復者を幸せにしたい、という思いで開発・販売に取り組みされてきました。乳がん患者が増加してきたこと、罹患年齢ピークはまだまだお洒落の真ただ中にあること、女性起業家を歓迎する政策と経済界が下支えして数々の賞を受賞し、支援を得てきたことなど、会社発展の要素は多くあったお陰でここまで順調に歩むことができた、と話されました。

中村様は、大変、若々しくエネルギーで他の追随を許さない一面を感じさせられます。私たちも今後のご活躍を応援したいものと思ったことでした。

おわりに、1年の始めの例会に相応しい豪華で静かな雰囲気の中で、目にも舌にも香りも美しいお料理を提供して下さった花外楼様にも山々、お礼申し上げます。

### 編集後記

新年会やチャリティ・イベントが終わり、この会報が出る頃には春本番になっているはずですが。会報のバックナンバーのPDF化も進み、第1号と第9号以外はそろっています。古い会報を読みたい方はご連絡ください。

坂本 千代